

# 令和8年度通常総会&体験発表会

## 次 第

開催日：令和8年5月17日(日) 9:30~12:00

会場：小郡地域交流センター・第1講座室(1階)

9:30~10:00 山口市有機農業推進協議会通常総会

1 会長挨拶

2 議事

議案第1号 令和7年度事業報告について

議案第2号 令和8年度事業計画(案)について

報告 令和7・8年度役員の変更について

3 その他

10:00~10:45 山口市有機農業推進協議会産直部会通常総会

1 会長挨拶

2 議事

議案第1号 令和7年度事業報告及び決算報告について

議案第2号 令和8年度事業計画(案)及び予算(案)について

報告 令和7~9年度役員の変更について

3 その他

10:45~11:00 休 憩

11:00~12:00 体験発表会

1 発表予定者

時津志帆さん…養蜂から米づくりへ

射延貴子さん…消費者グループによる米づくり

木原妃佐子さん…山口南出荷組合の活動など

2 司会進行

西本葉子さん

## 議案第1号

### 山口市有機農業推進協議会・令和7年度事業報告

#### 1 事業期間

令和7年(2025年)4月1日～令和8年(2026年)3月31日

#### 2 令和7年度事業 … ( )内は担当者

##### (1) 産直部会の活動の促進 (原田副会長)

内容：協議会の目的を推進する組織である「山口市有機農業推進協議会産直部会」(令和元年(2019年)12月15日設立)の活動を促進するため、次の事業に取り組む

##### ① 産直部会の販売活動に参加する認証農業者の確保《継続》

→農業者会員は、3名減の98名となっており、農業者会員の増加が強く求められる。一方認証農業者については、6名増の42名となった。例年通り令和7年度も時間を取られる事業に取り組んでいることもあり、農業者会員や認証農業者を増やすための取組が不十分であった。消費者等からの需要に応えるためには、もっと農業者会員や認証農業者を増やす必要が引き続きある。

##### ② 消費者会員との連携…産直提携の具体化を検討《継続》

→令和7年度も産直提携の具体化については実現に向けた検討さえ出来なかったが、消費者との米づくりを行い、提携を進めることができた。

##### ③ 「エシカル給食」の実施の円滑化《継続》

→「食育委員会」(委員長：西本葉子委員)を中心に、地元の関係者とも連携しながら、各方面への調整を行い、仁保の幼稚園、小中学校で「エシカル給食」を、令和7年度も3回実施した。さらに山口市南出荷組合の尽力により、昨年度に続き7年度も名田島学校給食共同調理場においても試行された。

##### ④ 硝酸態窒素の年2回の測定による認証農業生産者のレベルアップの促進《継続》

→硝酸態窒素の年2回測定の実施は、引き続き今後の課題となっている。

##### (2) 認証農業者のレベルアップ (原田副会長)《継続》

① 共同で堆肥や種苗をつくるグループを立ち上げることにより、参加農業生産者のレベルアップを図り、昨年度作成した「植え付け以降、化学農薬・化学肥料不使用」と「種・苗から化学農薬・化学肥料不使用」の2種類の認証シールの円滑な普及を進める。

→令和6年7月から本格実施した2種類の認証シールの円滑な普及を、順次進めていった。また市の補助を受け個人的な施設ではあるが、共同で堆

肥をつくることのできる場を設けた。

- ② 硝酸態窒素の年2回の測定による認証農業生産者のレベルアップの促進  
《継続》【再掲】

→今後の課題である。

- ③ 技術交流・研修会の開催《新規》

→7年度も、実施できなかった。

- (3) 有機菜園教室の開催（田島副会長）《継続》

4回目の開催となることから、実技を主体とした教室とする。

→前年度に続き担当した役員への負担は大きかったものの、延べで15名の受講者の参加を得て、有機農業に取り組む人を増やすことができた。担当する役員の負担を少しでも軽くするという課題はあるものの、新たに有機農業に取り組む人を増やすために、有効な取組であり、今後も継続の必要がある。

- (4) 食育委員会の活動の推進（西本委員）

- ① エシカル給食（児玉・西本）《継続・再掲》

→例年どおり仁保地域で実施でき、山口市南部でも取り組めた。

- ② 母推さん(母子保健推進員)コラボ講座（福田・木原・西本）《新規》

6/4(水)白石地区、9/12(金)吉敷地区

→予定どおり両地域の母推さんの協力を得て開催することができた。

- ③ 5/19~6/1 さよなら市庁舎プロジェクト・カフェ（木原・西本）《新規》

→予定どおり主催者に協力できた。

- ④ エシカル食育講座の拡大（児玉・西本）《新規》

→令和7年10月5日小郡地域交流センターにて開催。オーガニックやまぐちの農家さんの米・野菜を紹介した。

- (5) 「オーガニック&ナチュラルライフ ガーデンフェア」への協力（西本委員）  
《継続》

山口市が環境負荷低減を図る農業への理解を促進するために取り組むナナシマチ連携事業「オーガニック&ナチュラルライフ ガーデンフェア」が、実施される予定であり、令和7年度についても積極的に協力する

日時：令和7年(2025年)11月2日(日) 9:00~15:00

会場：山口市中央公園

→市が人や環境にやさしい食品や自然を楽しむ暮らしを紹介することで、持続可能な社会について考えてもらう機会を提供することをテーマに開催されたイベントで、3回目となった令和7年度も会員をはじめ多くの市民の参加があった。今後も、継続的な実施が求められる。

- (6) 農業からの脱炭素化の推進（東委員）《継続》

地球の温暖化は待ったなしの状況になっており、農業サイドから脱炭素化を

進めることが求められている。肥料いらず不耕起といった農業の常識を覆す農法も提案されており、会員の中には積極的に取り組んでいる人もいる。またバイオ炭（植物由来の炭）の農業への効用が明らかにされてきている。これらはいずれも、昨今の重要な課題である脱炭素化対策にも貢献するものであり、農業から地球温暖化防止策に資するものである。

そこでこれらの農法にも積極的に挑戦し、その実績等を広く広報することにより、農業からの脱炭素化の推進を図る。

→ますます必要性が高い取組ではあるが、ほとんど協議会としては取り組みなかった。

(7) **オーガニック給食についての研修会の開催**（原田副会長）《新規》

吉賀町の福原圧史さんと武岡真由美さんを迎えて「吉賀町のオーガニック給食の取組」と題する研修会を開催する。

日時：令和7年（2025年）8月23日（土）13:30～15:30（予定）

会場：宮野地域交流センター・多目的室

→多くの参加者を得て有意義な研修会となった。

(8) **会報「オーガニックやまぐち」の発行**（東委員）《継続》

第28号～第31号を発行予定

→第28号、第29号を発行した。業務の軽減化の一環として、第29号で休刊とすることにした。

(9) **ホームページの充実**（東委員）《継続》

認証農業者訪問や拠点販売協力店に関する情報、友好団体のイベント情報の掲載など、ホームページの充実を図るとともに最新情報の提供に努める

→「イベント」、「会報」による情報提供を、適宜行ったものの、更新作業に課題が残った。

(10) **総会の開催**（東委員）

新型コロナの感染状況に配慮しながら、総会を開催する方向で進める

日時：令和7年（2025年）5月18日（日）9:30～12:00

会場：小郡地域交流センター

→予定どおり総会を開催した。

(11) **役員会の開催**（東委員）

新型コロナの感染拡大状況をみながら、役員会を開催する  
役員の若返りを目指す

→第75回～第81回の役員会を開催した。

山口市有機農業推進協議会・令和8年度事業計画(案)

1 事業期間

令和8年(2026年)4月1日～令和9年(2027年)3月31日

2 令和8年度事業計画 … ( ) 内は担当者

(1) 山口市における有機農業の推進

市内で有機農業に取り組む団体等との連携を図り、山口市における有機農業を推進する。

(2) 産直部会の活動の促進 (原田副会長)

内容：協議会の目的を具体的に推進する組織である「山口市有機農業推進協議会産直部会」(令和元年(2019年)12月15日設立)の活動を促進するため、次の事業に取り組む

- ① 産直部会の販売活動に参加する認証農業者の発掘《継続》
- ② 消費者会員との連携…消費者との米づくりの継続実施《継続》
- ③ 「エシカル給食」の実施の円滑化《継続》

(3) 有機菜園教室の開催 (田島副会長)《継続》

5回目の開催となり、初心者から新規就農希望者まで対応した教室とする。

(4) 食育委員会の活動の推進 (西本委員)

- ① エシカル給食 (児玉・西本)《継続》
- ② エシカル食育講座の拡大 (児玉・西本)《継続》

(5) 農業からの脱炭素化の推進 (東委員)《継続》

ますます地球の温暖化は待たなしの状況になっており、農業サイドから脱炭素化を進めることが求められている。肥料いらず不耕起といった農業の常識を覆す農法も提案されており、会員の中には積極的に取り組んでいる人もいます。またバイオ炭(植物由来の炭)の農業への効用が明らかにされてきている。これらはいずれも、昨今の重要な課題である脱炭素化対策にも貢献するものであり、農業から地球温暖化防止策に資するものである。

そこでこれらの農法にも積極的に挑戦し、その実績等を広く広報することにより、農業からの脱炭素化の推進を図る。

(6) ホームページの充実 (芥川委員)《継続》

認証農業者訪問や拠点販売協力店に関する情報、友好団体のイベント情報の掲載など、ホームページの充実を図るとともに最新情報の提供に努める。さらに会報を休刊にしたことを踏まえ、会員の活動状況を投稿できるコーナーを新たに設けるなどホームページの充実を図る。

(7) 総会の開催 (東委員)

下記により、通常総会を開催する。

日時：令和8年(2026年)5月17日(日) 9:30～12:00

会場：小郡地域交流センター

(8) 役員会の開催 (東委員)

事業計画を適切に遂行できるよう定期的な役員会を開催する。

永遠の課題である役員若返りを、今年度も目指す。

## 報告

### 令和7年度・令和8年度の役員の変更について

令和7年度・令和8年度の「山口市有機農業推進協議会」の役員（敬称略・五十音順）を、次のとおり変更する。

なお役員の補充は役員会に一任することとし、当面は、規約の第7条の役員のうち、会計、監事は置かない。

特に今期は、役員のリフレッシュを目指す。

会長	神田一夫（名田島）【農業者】	《留任》
副会長	原田正暁（小鯖）【農業者】	《留任》
副会長	田島徳明（陶）【農業者】	《留任》
委員	芥川愛子（大内）【消費者】	《再任》
委員	東孝次（平川）【消費者】	《留任》
委員	梅田真由美（秋穂）【農業者】	《新任》
委員	木原妃佐子（陶）【消費者】	《留任》
委員	児玉純子（仁保）【消費者】	《留任》
委員	西本葉子（白石）【消費者】	《留任》
委員	福田智里（吉敷）【消費者】	《留任》

#### 〈退任役員〉（敬称略）

長富英一郎（小郡）【農業者】

津田範子（小郡）【農業者】

## 議案第1号

### 産直部会・令和7年度事業報告（令和7年4月～令和8年3月）

#### 1 食糧の確保と安全な農産物の提供への取組 【継続】

引き継ぎ、農業者会員へ参加を一層呼びかけ、「山口市有機農業推進協議会産直部会認証農業者認証委員会」のさらなる認証活動により、認証農業者を増やし、危機的状況にある日本の食糧の確保と安全な農産物の提供に向け取り組む。

そのため「有機菜園教室」については、新規就農希望者まで対応することとし、実践者として有機農業に取り組む農業者を増やす。

→農業者会員は、3名減の98名となっており、農業者会員の増加が強く求められる。一方認証農業者については、6名増の42名となった。例年通り令和7年度も時間を取られる事業に取り組んでいることもあり、農業者会員を増やすための取組が不十分であった。消費者等からの需要に応えるためには、もっと農業者会員や認証農業者を増やす必要が引き続きある。

#### 2 産直部会で定める認証基準の徹底と認証シールの円滑な運用 【新規】

新たに明文化した認証基準の適正な適用を進めるとともに、認証農業者のグレードアップをさらに図るため、硝酸態窒素含有量の検査を年2回の実施を目指す。昨年度作成した「植え付け以降、化学農薬・化学肥料不使用」と「種・苗から化学農薬・化学肥料不使用」の2種類の認証シールの円滑な普及を図る。

→令和6年7月から本格実施した2種類の認証シールの円滑な普及を、順次進めていった。

#### 3 「オーガニック&ナチュラルライフ ガーデンフェア」への協力 《継続》

山口市が環境負荷低減を図る農業への理解を促進するために取り組むナナシマチ連携事業「オーガニック&ナチュラルライフ ガーデンフェア」が、実施される予定であり、令和7年度についても積極的に協力する

日時：令和7年(2025年)11月2日(日) 9:00～15:00

会場：山口市中央公園

→市が人や環境にやさしい食品や自然を楽しむ暮らしを紹介することで、持続可能な社会について考えてもらう機会を提供することをテーマに開催されたイベントで、3回目となった令和7年度も会員をはじめ多くの市民の参加があった。今後も、継続的な実施が求められる。

#### 4 農業からの脱炭素化の推進 【継続】

地球の温暖化は待ったなしの状況になっており、農業サイドからも脱炭素化を進めることが求められている。肥料いらず不耕起といった農業の常識を覆す農法も提案されており、会員の中には積極的に取り組んでいる人もいる。また

バイオ炭（植物由来の炭）の農業への効用が明らかにされている。これらはいずれも、昨今の重要な社会課題である脱炭素化対策にも貢献するものであり、農業から地球温暖化防止策に資するものである。

そこでこれらの農法にも積極的に挑戦し、その実績等を広く広報することにより、農業から脱炭素化の推進を図る。

→ますます必要性が高い取組ではあるが、ほとんど取組ができなかった。

## 5 食農教育、食文化の向上 【継続】

「食育委員会」を中心に、エシカル給食の普及に努めるとともに、体験農業や食農教育にも取り組む。

→「食育委員会」（委員長：西本葉子委員）を中心に、地元の関係者とも連携しながら、各方面への調整を行い、仁保の幼稚園、小中学校で「エシカル給食」を、令和7年度も3回実施した。さらに山口市南出荷組合の尽力により、昨年度に続き7年度も名田島学校給食共同調理場においても試行された。

体験農業や食農教育への取組は、今後の課題である。

## 6 諸制度の取得と利用について助言と支援 【継続】

引き続き環境保全型農業直接支払制度の申請に当たっての支援を行う。さらに既に設立している出荷組合に対して、必要な支援も行う。

→環境保全型農業直接支払制度の申請に当たって支援を行った。

## 7 数値目標（令和8年3月末まで）

令和8年3月末までの数値目標を次のとおりとする。

項 目	現 状 (R7. 3. 31 現在)	目 標		実 績 (R8. 3. 31 現在)
		前年度	今年度	
会員農業者数	101名(+4)	110名	110名	98名(-3)
認証農業者数	36名(+3)	40名	45名	42名(+6)
会員消費者数	65名(+9)	70名	85名	72名(+7)

山口市有機農業推進協議会 産直部会・令和7年度 決算

(令和7年4月～令和8年3月)

1. 収入の部

科目	予算	決算	増減	内容
販売手数料	150,000	156,500	6,500	(販売認証シール)
寄付金	0	0	0	
山口市助成金	50,000	50,000	0	菜園教室
雑収入	0	1,462	1,462	販売手数料 1,352、預金利息 110
前年度繰越金	139,336	139,336	0	
計	339,336	347,298	7,962	

\* 認証シール 31,300 × 5円/枚

2. 支出の部

科目	予算	決算	増減	内容
役員・統括者手当	21,000	0	-21,000	
認証委現地調査費	28,500	7,500	-21,000	2,000×3人；G代 1,500
会計・事務手当	6,000	0	-6,000	
委員会役員手当	12,000	0	-12,000	
広報手当	4,000	1,000	-3,000	1,000(サーバー代)
シール代	0	0	0	
支援金	90,000	70,000	-20,000	OY 菜園教室 7万(市助成金含む)
資材費	15,000	0	-15,000	PR用資材、印刷代
雑費	5,000	3,000	-2,000	団体参加費 3千
研修費	20,000	0	-20,000	
予備費	10,000	0	-10,000	
次年度繰越金	127,836	265,798	137,962	
計	339,336	347,298	7,962	

監査報告

令和7年度決算について、収支決算書、帳簿、通帳等に基づいて監査したところ適切であると認めます。

令和 8年4月 2日

監事

東 孝 次

## 令和7年度 有機菜園教室 決算報告

R8, 3, 31

### 収入の部

科目	予算額	決算額	備考
会費（通年）	130,000	190,000	13,000×14名（材料代含む） 8,000×1名（途中参加）
支援金	70,000	70,000	山口市助成金（産直部会経由）5万円 山口市有機農業推進協議会産直部会2万円
雑収入	0	164	預金利息
前期繰越金	9,390	9,390	
合計	209,390	269,554	

### 支出の部

科目	予算額	決算額	備考
講師料	115,000	115,000	1回2,500円 46回分 21回1名、19回1名、4回1名、1回2名
圃場管理費	25,000	25,000	20,000円×1名 5,000円×1名
圃場借上費	5,000	5,000	
会計人件費	3,000	3,000	3,000円×1名
作業燃料費	0	2,000	トラクター、草刈り機燃料費
苗・種代	25,000	39,352	トマトなど野菜苗、大根など野菜種
肥料・資材費	20,000	31,997	サンライム 鶏糞 支柱 野菜の土 ポリポット等
その他教材費	0	23,146	炭化器使用量 温床管理費 収穫祭等費用等
印刷文具費	3,000	6,381	配布資料代、印刷代
雑支出	0	6,750	長期欠席者材料費返却2名分 450円/月×(9+6)
合計	196,000	257,626	

次年度繰越金	13,390	11,928	
--------	--------	--------	--

講師 : 田島徳明、原田由美子      臨時講師 : 重富幸江、樋垣寛、西本葉子  
圃場管理 : 田島徳明、原田淳子  
会計事務 : 山野美智子

## 議案第2号

### 産直部会・令和8年度事業計画(案)（令和8年4月～令和9年3月）

#### 1 食糧の確保と安全な農産物の提供への取組 【継続】

引き継ぎ、農業者会員へ参加を一層呼びかけ、「山口市有機農業推進協議会産直部会認証農業者認証委員会」のさらなる認証活動により、認証農業者を増やし、危機的状況にある日本の食糧の確保と安全な農産物の提供に向け取り組む。

そのため「有機菜園教室」については、引き続き新規就農希望者まで対応することとし、実践者として有機農業に取り組む会員農業者を増やす。

#### 2 産直部会で定める認証基準の徹底と認証シールの円滑な運用 【継続】

認証基準の適正な運用を進めるとともに、認証農業者のグレードアップをさらに図るため、硝酸態窒素含有量の検査について年2回の実施を目指す。昨年度作成した「植え付け以降、化学農薬・化学肥料不使用」と「種・苗から化学農薬・化学肥料不使用」の2種類の認証シールの円滑な普及を進める。

#### 3 有機菜園教室の開催 《継続》

5回目の開催となる今年度は、昨年度に続き初心者から新規就農希望者まで対応した教室とする。

#### 4 有機農業団体が実施するオーガニックフェア等への連携協力 【新規】

子育て世代など安全・安心な食を求める消費者へ農薬・化学肥料不使用の野菜・米を届けるため、有機農業団体が実施するオーガニックフェア等に対して、企画への支援や出店など積極的に連携協力する。

#### 5 諸制度の取得と利用について助言と支援 【継続】

引き続き環境保全型農業直接支払制度の申請に当たっての支援を行う。さらに既に設立している出荷組合に対して、必要な支援も行う。

#### 6 数値目標(令和9年3月末まで)

令和9年3月末までの数値目標を次のとおりとする。

項 目	令和7年度 (R8. 3. 31 現在)	目 標		実 績
		前年度	今年度	
会員農業者数	98名(-3)	110名	110名	
認証農業者数	42名(+6)	40名	50名	
会員消費者数	72名(+7)	70名	80名	

山口市有機農業推進協議会産直部会・令和8年度 予算（案）

（令和8年4月～令和9年3月）

1. 収入の部

科目	今年度予算	前年度予算	増減	内容	前年度実績
販売手数料	90,000	150,000	-60,000	(販売認証シール)	156,500
寄付金	0	0	0		0
山口市助成金	50,000	50,000	0	有機菜園教室	50,000
雑収入	0	0	0		1,462
前年度繰越金	265,798	139,336	126,462		139,336
計	405,798	339,336	66,462		347,298

\* 認証シール 30,000 × 3円/枚

2. 支出の部

科目	今年度予算	前年予算	増減	内容
役員・統括者手当	0	21,000	-21,000	
認証委現地調査費	28,500	28,500	0	2,000×4 <sup>人</sup> *3 ; G代 1,500*3
会計・事務手当	0	6,000	-6,000	
委員会役員手当	0	12,000	-12,000	
HPサーバー利用代	4,000	4,000	0	
イベント事業費	100,000	0	100,000	オーガニックフェア等への連携協力予算
シール代	100,000	0	100,000	
支援金	70,000	90,000	-20,000	有機菜園教室 7万(市助成金含む)
資材費	15,000	15,000	0	PR用資材、印刷代
雑費	3,000	5,000	-2,000	団体参加費 3千
研修費	20,000	20,000	0	
予備費	10,000	10,000	0	
次年度繰越金	55,298	127,836	-72,538	
計	405,798	339,336	66,462	

\* 資材費内訳  
パンフレット 10,000  
印鑑、文具 5,000

令和8年度 有機菜園教室 予算案

R8, 4, 1

収入の部

科目	予算額	前年実績	備考
会費（通年）	269,000	190,000	13,000×20名（材料代含む） 9,000×1名（材料代含む）学割
支援金	70,000	70,000	山口市助成金（協議会経由）5万円 山口市有機農業推進協議会産直部会2万円
雑収入	100	164	預金利息
前期繰越金	11,928	9,390	
合計	351,028	269,554	

支出の部

科目	予算額	前年実績	備考
講師料	124,500	115,000	2,500円/人×2人×（2回/月×12月-2） 500円/人×3人×3回（指導助手） その他講師料2,500円×4回
圃場管理費	27,000	25,000	20,000円×1名 7,000円×1名
圃場借上費	8,000	5,000	
会場利用料	19,600	0	陶生きがいセンター利用料980円×20回
会計人件費	3,000	3,000	3,000円×1名
作業燃料費	7,000	2,000	トラクター、草刈り機燃料代
苗・種代	56,000	39,352	トマトなど野菜苗、大根など野菜種
肥料・資材費	49,000	31,997	サンライム 鶏糞 支柱 野菜の土 ポリポット等
その他教材費	25,000	23,146	炭化器使用料 温床管理費 収穫祭等費用代
印刷文具費	15,000	6,381	配布資料印刷代、事務備品代 事務費、広報費
雑支出	10,000	6,750	
合計	344,100	257,626	

次年度繰越金	6,928	11,928	
--------	-------	--------	--

【運営スタッフ】

講師：田島徳明、原田由美子

圃場管理：田島徳明、原田淳子

会計・事務：山野美智子

安全・安心で美味しい野菜の作り方を、楽しく学んでみませんか？

## 有機菜園教室

山口市有機農業推進協議会 主催

令和8年度  
参加者募集中



開催日 4月～翌年3月の毎月2回（第2日曜日、第4土曜日）を原則とし、臨時に開催あり。

時間 8時～11時(冬期9時～12時)

会場 山口市陶高齢者生きがいセンター(山口市陶571)と近くの圃場 ⇒

募集人員 15名程度

受講料・材料費 13,000円〔年間受講料8000円 材料費5000円〕

受講料・材料費は一括払いをお願いします。年度途中からの参加は割引します。

ご家族での参加も可能です(加算なし)。

納入された受講料については返金いたしかねますので予めご了承ください。

持ち物 作業服、帽子、長靴、軍手、水筒、農具等

講師 協議会会員:原田由美子 田島徳明 他

講義内容 野菜の特性、種蒔(直播き・ポット・セルトレイ)、定植 栽培 収穫

土作り 肥料について(EMぼかしづくり) 農具の使い方 自然農薬について など

問い合わせ先 TEL: 090-8243-5092 (講師:田島) 090-3375-7841 (講師:原田由)

申し込み先 E-mail: harada.siyouaki@rose.plala.or.jp (産直部会:原田正)

FAX: 083-934-2651(山口市農業振興課)

または右のQRコードより、入会と合わせてお申し込みください。

その他 傷害などへの対応は、各自の保険をお願いします。



### 参加申込書

令和8年 月 日

氏名	フリガナ	同 伴 者			
		大人	名	子ども	名
住所	〒				
連絡先	TEL	E-mail			
	※ 山口市有機農業推進協議会に入会し(無料)、有機菜園教室に参加します。				

## 報告

### 令和7～9年度役員の変更について

令和7～9年度の「山口市有機農業推進協議会産直部会」の役員（敬称略・五十音順）を、次のとおりとする。また役員の新補充等は役員会の一任とする。

特に役員の新返りを目指す。

#### 《山口市有機農業推進協議会産直部会》

役名	氏名	備考
顧問	神田一夫（農業者）	名田島
会長	原田正暁（農業者）	小鯖（朝市の運営管理）
副会長	田島徳明（農業者）	陶（栽培技術指導）
地域統括責任者	（北部）伊籐繫樹（農業者）	阿東
	（中部）的場知之（農業者）	嘉川
	（南部）田島徳明（農業者）	陶
	（小鯖）原田正暁（農業者）	小鯖
会計	<b>梅田真由美</b> （農業者）	秋穂
事務	東孝次（消費者）	平川
広報担当者	芥川愛子（消費者）	大内（ホームページ管理）
マーケティング担当者	西本葉子（消費者）	白石（SNS等担当）
監事	<b>飯田美鈴</b> （農業者）	大内
監事	東孝次（消費者）	平川（事務局）

#### 【退任役員（五十音順）】

長富英一郎（農業者）《小郡》

津田範子（農業者）《小郡》

#### 《参加農業生産者認証委員会》

役名	氏名	地域名
委員長	田島徳明（農業者）	陶
副委員長	<b>原田由美子</b> （農業者）	嘉川
委員	原田正暁（農業者）	小鯖
委員	<b>梅田真由美</b> （農業者）	秋穂

#### 【退任役員（五十音順）】

西本葉子（消費者）《白石》

福田智里（消費者）《吉敷》